



ゆめのね通信

～ 地域の子ども・子育て応援団 ～

No.9 / 2025(令和7)年1月25日発行

(1月、4月、7月、10月の25日発行)

児童家庭支援センター ゆめのね

横浜市保土ヶ谷区和田2-2-7 メゾン横山1階

TEL 045-465-4472 発行責任者:山下 きよ子

地域交流事業など イベント参加のご報告

地域みなさまに「子ども・子育ての相談事業所」として認知いただけるよう、日ごろより様々なイベントを実施しています。

2024

11月

ほっしいーのわいわいフェスティバルに出展!

星川地域ケアプラザ主催の恒例イベント「ほっしいーのわいわいフェスティバル」に初めて出展させていただきました。約100人の方々が、わなげや“単語つりゲーム”に参加。地域ケアプラザのみなさんと協働させていただき、充実の時間でした!



わなげでは好きな色や顔をねらったりして、皆さん楽しんでいました。



ひらがなの海が、ひらがなで単語をつりつりして楽しんでいます。

12月

2024年最後の「子育ておしゃべりカフェ」開催

過去最多20名の親子が参加し、熱気むんむんでした! 今回のミニ工作は、クリスマスにちなんで手作りツリー&リースをご用意。色紙や綿など、気に入った素材をべたべた貼って楽しんでいただきました。ゆめ喫茶のケーキ&ドリンクも好評でした!



お母さん同士の交流も生まれ、にぎやかな時間でした



2025

1月

初夢まつりに参加しました♪

1月12日(日)、ゆめのねの運営母体である社会福祉法人ほどがや主催の初夢まつりが開かれ、我々職員も参加しました。当日は約300人の方々が訪れ、にぎやかな一日となりました。



恒例のスーパーボールすくいやプラ板づくりをお楽しみいただきました



子育ておしゃべりカフェ



2024(令和6)年
4月11日(木)
6月13日(木)
8月8日(木)
10月10日(木)
12月12日(木)
2025(令和7)年
2月13日(木)

- 🕒 時間: 10~12時
- 📍 場所: おもちゃ文庫 (ほどがや地域活動ホームゆめ)
- 👥 対象: 乳幼児・未就学児~小学3年生とその保護者
- 🆓 無料・入退室自由



おもちゃ文庫のInstagramでカフェの様子が見られるよ!



12月もたくさんのご来場ありがとうございました!
今年度の開催は、あと1回♪



今月の「マルっとほどがや」

UR子育てサポーター
すずきさん



『URである♪』のメッセージでお馴染みのUR賃貸住宅。今回は、保土ヶ谷区のコンフォール明神台でUR子育てサポーターとして活動するすずきさん、子育てサロンの立ち上げに尽力されたUR都市機構のまつおかさんを訪ねました。その活動はとてもアクティブで、これからの時代に必要なまちづくりのヒントにあふれていました。

子育てサロンの様子



横浜型児童家庭支援センター
ゆめのね

児童福祉法に基づき横浜市から認可を受け、2018年に開設した児童福祉施設です。相談員や心理担当職員などを含め、10人の職員が支援にあたります。

実施事業

子ども・子育て 相談事業

0～18歳までの子どもに関する相談をお受けし、必要に応じて、関連機関と協力しながら解決に向けたお手伝いをします。

子育て 短期支援事業

2～12歳（小学生まで）の子どもを対象とした横浜市の委託事業で、利用の必要性を区や児童相談所が判断し、必要と認められた場合に利用できる事業です。利用には登録が必要で、世帯の収入に応じた利用料が発生します。

地域交流事業

イベントや子育てに役立つ講座などを通し、地域の方々と交流します。

里親子・ファミリーホーム等への支援

地域で生活する里親や里親宅で暮らす子ども、ファミリーホームの養育者の方からの相談をお受けしています。

- 相談時間は月～金曜の平日 10～17時
(※年末年始12/29～1/3を除く)
- 男性スタッフ・女性スタッフが常駐

◆相談例◆

- ・子どもの発育状況が気になる…
- ・イライラして子どもに当たってしまう…
- ・(子ども)学校でイヤなことがあった…

もしもし?



相談方法をえらべます

電話



匿名でも結構です。保護者の方はもちろん、お子さん自身からの相談もお受けします。

訪問



ご自宅でゆっくりお話ししたい方におすすめです。電話にできませんはご相談ください。

来所



相談室をご用意しています。お子さんを遊ばせながら相談したい、という方もお気軽にご相談ください。

職員

センター長



山下

相談員



橋間 佐藤 志留 毛利

心理担当



川島

支援員



松下 佐々木 原川 片井

子育て応援団長「のねさん」

好きなことはひとのお話をきくこと。
夢は ふたばから花を咲かせて
お友だちにとどけることです。



じょうろは
支え合いのシンボル

元気と成長のパロメーター
花が咲く、かも!?

ここぞ!というとき
色が変わる!?

アクセス

相鉄線 星川駅・和田町駅から徒歩約10分



まよったら
お電話ください



キョウテイの勇氣 Kouyanka



マルっとほどがや

保土ヶ谷区などで様々な活動をおこなう方々をゆめのね職員が訪問、紹介します

団地の子育てをあたたくサポート！ ～みんなが主役の居場所へ～

UR
子育て
サポーター



すずきさん

UR子育てサポーターのお仕事

- 1 子育てに役立つ情報の発信
- 2 楽しい子育てイベントの開催
- 3 子育てに関する相談対応

コンフォール明神台を始め、9つの団地からスタートしたUR子育てサポーター、いまは17団地に増えているんだって！



コンフォール明神台

子育てサロンに、保健師、幼稚園・保育園の先生、主任児童委員、自治会、地域ケアプラザ…と、地域の方々がそろっていて驚きました！

まつおか：集会所や空き部屋を使用して地域の方が居場所づくりをしている例は他地域にもありますが、何もないところから地域の人が声をかけあい継続に至った例はなく、URとしては初めての経験でした。令和5年6月、エリアごとに区役所が開催している子育て支援連絡会という会議で、「URは団地管理が主だが、子育てにかかわる取り組みを始めたい」という思いを説明させていただいたところから始まりました。すると、地域の方々の「やってみよう！」という声が集まり、当時、区役所にいた保健師さんが「じゃあ、みなさんやりましょうよ！」と間を取り持ってくれたんです。その保健師さんは異動してしまいましたが、「行政だけではなく、地域のいろいろな人の強みを活かしたい」という思いが強い方で、良いチャンスをくださったと感謝しています。そうして、話し合いから2か月後には、1回目の『子育てサロン プチ☆スター』が立ち上がっていました。地域の方々の「やってみよう」という声力がになり、いろいろな人が主体的に関わっている、という印象です。

すずき：仲間が増えていき、形になっていく過程は本当に楽しかったですし、地域の方から「すずきさんが来て明神台が元気になったよね」と言われたときは、心から嬉しかったです！

サポーター誕生の経緯

1955年、戦後の住宅不足解消という社会課題解決のため、住まいをつくることから始まったUR都市機構。『社会課題を、超えていく。』をキャッチフレーズに、まちづくり・くらしづくりを通して様々な社会課題と向き合ってきたURが、2022年に誕生させたのがUR子育てサポーターです。出生率減少、少子高齢化の進行、核家族化の進展など様々な社会的背景があるなか、子育て世帯の孤立を予防し、若年層子育て世帯が安心して暮らせる住生活を実現させようとスタートしました。

明神台エリアを担当しているURのまつおかさんと二人三脚で、事業を展開しているそうです



UR都市機構
まつおかさん

明神台子育てサロン プチ☆スター

★場所 コンフォール明神台 2-3号棟集会所
★日時 第4水曜 10～12時 (12月のみ第3水曜)

令和5年9月、UR コンフォール明神台でスタート。保土ヶ谷区の子育て支援者が協力し、月1回開催中。0歳～就学前のお子さんと保護者が対象。“幼稚園ミニ体験”や季節に合わせたイベントが好評だそう！

パネルシアター



初音丘幼稚園の先生方が親子ふれあい遊びや工作で会場を盛り上げていました。工作は、小さなお子さんでも楽しめるよう、感覚遊びを取り入れるなど、工夫が凝らされていました！

工作タイム



昨年12月、プチ☆スター終了後、初めて「子ども食堂」を開催。様々な交流を通し、子育て仲間が増えるといいなと感じました！



UR子育てサポーターのすずきさんをはじめ、地域の子育て関係者がずらり！自治会や保育園の方もいるそうで、「顔が見える安心感」がとってもいいですね！



かばやさん
(主任児童委員)



昨年9月から子育てサロンのリーダーを務めるかばやさん。「保育のプロもいて心強い！」「URさんが入って、なんだか新しい感じがします♪」と生き生き活動されていました。

UR子育てサポーター
Instagram だよ！

子育てサロンのお知らせは
もちろん、子ども・子育てに
関する情報を随時発信中！



進める中で、難しいこともありますか？

すずき：地域の人を、どうしたら主役に持っていけるか、ですね。URが中心となってやるのは簡単ですが、もし私がやめてしまったら、社会資源が減ってしまいます。持続可能な、真の地域の社会資源になるためには、地域のプレーヤーが重要になります。実は、昨年9月から、主任児童委員のかばやさんに、子育てサロンのリーダーをバトンタッチしました。かばやさんはものすごく熱い思いを秘めている方なので、期待しています。

昨年12月のプチ☆スターでは、初の子ども食堂を開催されましたね。

すずき：サロンでおにぎりやみそ汁を食べて、みんなでおしゃべりするのが楽しかったのも、これもまたひとつ、夢が叶いました(笑)。他の子ども食堂と違うのは、子育てサロンの流れで開催していることです。保護者の方の負担軽減はもちろん、その場で相談できたり、子育て仲間のつながりを深めてもらえるきっかけに寄与できているかなと感じています。

来場者から相談を受けることはありますか？

すずき：保健師時代に受けていたような、言葉の遅れなどのような育児相談があるかなと思いましたが、違いました。様々なイベントを通して感じるの、ぼろっと“こぼす”大切さです。「この子、緑の野菜食べないのよねえ…」みたいな。「こぼす」と、周りで聞いているママが、「うちもよ」と便乗したりして、会話が生まれます。ママは回答が欲しいわけではないんですよね。逆に「相談にいくぞ！」という時には、よっぽどため込んでいるのかなと…。「わかってくれる人がいるサロンで“こぼす”」、それでいいのかなと感じています。

今後、子育てサポーターとして抱負はありますか？

すずき：12月に初開催した子ども食堂は、7割の参加者が「毎月やってほしい！」とアンケートに答えて下さいました。主任児童委員のかばやさんも、食に関しての思いが強い方なので、一緒に相談しながら発展の道筋を考えていきたいです。
まつおか：ゆくゆくは、子どもやその親だけでなく、いろんな世代の方にとっても居場所になるような形を目指したいですね。支えられるだけでなく支える側になる経験も通して、「みんなの居場所」になるような取り組みに発展させていきたいです。